

第3回王子駅周辺まちづくりランドデザイン策定検討会  
議事要旨

◇ 日時

平成28年12月19日（月）午後3時30分から

◇ 場所

北区第一庁舎 4階 第二委員会室

◇ 会議次第

1. 開会

2. 委員紹介

3. 議題

「王子駅周辺まちづくりランドデザイン策定」について

4. 閉会

◇ 出席委員

29名

会長 出口 敦

副会長 関澤 愛、久保田 尚

委員 前田 英寿、杉崎 和久、上野 雄一、中島 高志、奥山 宏二、東野 寛  
牧野 和宏、野崎 誠貴、小林 毅久、井料 青海、三吉野 育人  
米 彰、清塚 淳、新井 隆之、齋藤 邦彦、安藤 昇作、堀江 毅  
越野 充博、齊藤 正美、尾花 秀雄、水越 乙彦、依田 園子、中澤 嘉明  
浅川 謙治、横尾 政弘、荒田 博

◇ 議事内容

1. 開会

- 事務局より開会宣言

2. 委員紹介

- 委員名簿にての確認
- 所用につき途中退席の委員がいる旨連絡

3. 議題 「王子駅周辺まちづくりグランドデザイン策定」について

- 傍聴希望者の入場
- 事務局より配布資料にもとづき説明を行った後、質疑応答
- 質疑応答の内容は以下に示す通り

(会長)

本日の検討事項は大きく3点あり、1点目は、まちづくりのコンセプト、2点目はグランドデザインのとりまとめの方向性、この2つがグランドデザインのアウトプットの構成になるのかと思う。それから、3点目は、グランドデザイン策定までのスケジュールについて。今回の検討会は第3回ということで、主に1点目と2点目について、皆さまからご意見をいただきたい。

まず部会の報告について、部会の学識の先生から補足等があればお願いしたい。特になければ、続いて本日の検討事項について、25ページ目のまちづくりのコンセプトについて。前回からそれほど大きくは変わってはいないとのことだが、東京の北の交流拠点と、後段の水と緑豊かな王子であるということを、将来像のコンセプトとして一つキャッチフレーズのような形で整理をしていただいた。これについて、何かご意見などあれば伺いたい。

(委員)

他地区との連携、差別化について。王子と赤羽の関係は、北区全体ということで意味合いが何となくイメージできるが、池袋や日暮里との連携、差別化が今ひとつイメージしづらい。これについて、部会でどのような議論がなされたのか。あまり議論されていないのであれば、思い描いているイメージを教えてください。

(事務局)

こういった形のものを事務局から、部会で提示はしたものの、特にどういった部分で、どのように連携を図っていくかというところまでは、議論が煮つまらなかった。

(委員)

あまり部会では議論されなかったが、現状、若干語弊があるかもしれないが、東京の中で南部エリアなどと比べると北部エリアは特徴が弱い。その課題を克服していく意味でも、北部エリアの各地区がそれぞれ今持っているポテンシャルを活かしながら、北部エリアのランクを上げようという意味で、私はこの絵を理解している。

(会長)

役割分担は非常に重要であるが、こういった部分でというところがきちんと整理されないと、なかなか広域圏での王子の位置付けが浮き彫りにされてこないという気がしている。

(委員)

池袋や日暮里などを、一つのたたき台として出す分には良いが、今後ランドデザインの中で、これが一人歩きしないようにしなくてはいけない。個性ある多様な拠点のひとつとして王子がどう光っていくかということで考えれば、北部の中で隣り合わせたところと連携する必要があるのかということも考えられる。王子がどう光るのかというところがまずあって、それを補完していく意味での他地区との連携といった発想でないという意味がない。

(会長)

今の発言は、赤羽、日暮里、池袋などを含めた東京の北部広域圏の中で王子の役割などを抽出するのではなくて、むしろ王子は王子として、きちんとした拠点を形成し、その中で赤羽や日暮里、池袋などの拠点とどういうふうに関係性を持てるのかというプロセスで考えていくべきではというご意見である。

(事務局)

東京の南部エリアなどと比較して北部エリアを捉えた場合、委員からご指摘のあるように王子は王子と思いながらも、やはり王子だけでは北部の拠点というのを作り出すのは、なかなか難しいと考えている。そういう意味で、北部のさまざまな拠点が、それぞれ特徴を活かしながら発展していく中で対流しつつ、個性ある拠点としてそれぞれが発展していくというようなことをイメージし、今回このような図を示している。したがって事務局としては、王子だけではなく、周辺地区と連携および役割分担しながらやっていきたいと考えている。

(会長)

東京都の北部エリア全体で役割分担しながら連携・差別化していこうとする方向性がある一方、いまは地区間競争の時代でもある。それぞれの地域が競い合う中で強みを活かし、あるいは弱みを克服して拠点を作っていくという姿もないといけない。みんなが横並びで調整して役割分担をしていきましょうという考え方と同時に、各々がどういう魅力をつくっていくのかというような、ある意味ライバルとして見る観点も私は必要ではないかなと思っている。そういった意味で、王子においては、区役所の移転を契機として王子駅を中心とした拠点をつくっていくことが、非常に重要な姿勢ではないかなという気がしており、事務局には再度、強く意識していただきたい。

(委員)

今回提示いただいたコンセプトについては、前回幾つか言わせていただいた意見もだいぶ反映されており、概ねこういう方向でいいのではと思っている。東京の北の交流拠点という方向性を打ち出すのであれば、21 ページに記載のある、赤羽との連携強化以外にも、先ほどご指摘のあった池袋、日暮里との関係についても強化していくような方向性を出す

必要がある気がしている。例えば、高速バスの発着地ということに関連させると、日暮里を通じて空港と結び付いているという優位性をさらに発展させ、直接王子にダイレクトに空港との結び付きを強化していくという方向もある。また地下鉄に関しては、どういう形で王子にお客さんと呼び込んでくるのかという発想で、鉄道施設の改良などを含め、乗り換え利便性などを向上させていくような方向性もあると思っている。

池袋との連携については、都電を活用した形で、何かタイアップするなどの方向性もあるかもしれない。交流というものを打ち出すのであれば、池袋、日暮里、あるいは赤羽との役割分担を考えた上で、交流を促進できる仕掛けを作っていくなどの方向性を、さらに深めていくことがあり得るのではと考えている。

赤羽との役割分担については、資料にて赤羽には商業・業務・教育・文化機能などが集積し、王子は商業・業務・教育とされており機能が重複している。唯一の違いである、起業を支援する環境整備をしていくということと、宿泊施設を誘導していくということが差別化を図っていくことができる部分ではあるが、都市機能については、飛鳥山など、王子ならではの貴重な資源を活用しながら特徴あるものにしていく方向性を追求し、赤羽との関係を整理したうえで、どのようなものを充実させるべきか検討していくと、さらにいいものになっていくのではと感じている。

交流を促進するためのインフラ関係についても、舟運の活用、水辺の臭気の対策なども含めて検討を深めていただくと、より良くなるのではと思っている。

(委員)

赤羽と王子との関係で言うと、両方とも商業の集積が方向性としてある。しかし王子は文化機能や、公園などの自然資源といった特色があるので、それらを活かしながら個性が光るようにし、人に快適に活動してもらったり、集まってもらって時間を過ごしてもらえそうな整備をしてもらえればと思う。そういった点から考えると、連携という言葉がどういうことを指すのかというのは、きっちり考え方として整理しておいていただきたい。その前提としては、駅勢圏の話などが関係し、それぞれの駅において、どういう人がどこから来て、何の目的でその駅を利用しているのかなどを明らかにすることも、今後の検討においては重要ではないか。

(事務局)

いただいたご意見を基に、もう一度整理をさせていただきたい。

(副会長)

そういう意味では、11ページにある図の、白い隙間の部分が大事ではないだろうか。池袋など他の拠点と対比して、どこが境界線なのかということ意識することが大事である。例えば、都電の沿線に住んでいる方が、池袋に行こうか、王子に行こうか考えた時、巨大なデパートもあるから池袋に行こうかと思ってしまいかもしれない。しかし王子に池袋にない魅力や施設などがあれば、ちょっと遠出してでも王子まで来てくれるかもしれない。駅周辺だけでなく、間の白い部分に住んでいる人目線で考えることも重要な視点である。

(委員)

11 ページの図の王子の部分に、歴史・自然・交流と書かれているが、もう一つ教育というような観点があると思っている。王子の駅を利用している学校は多数あり、そういった側面を取り上げると教育都市王子といってもいいのではないだろうか。学生は、まちにお金を落としてくれる対象ではないかもしれないが、例えば今、王子総合高校の学生さんたちは、町会自治会と一緒にお祭りをやったりしており、まちを盛り上げる人材として資源になるのではと感じている。

(事務局)

20 ページのゾーニング図内、①都市機能集積ゾーンは、いろいろ高校など教育機関が集積しているところであるが、ここに「商業・業務・教育を中心としたさらなる土地利用の集積と更新」と示している。教育もまちづくりにおける一つのポイントと考えており、その辺りの関連付けも整理をした上で、最終的にとりまとめをしたい。

(委員)

イメージとして、王子が教育のまちであること自体が、王子というまちを選択するという事に繋がるかもしれない。すぐに経済活動につながるものではないかもしれないが、まちの価値を上げていくための魅力としての要素としては重要なものではないか。

(会長)

貨幣換算したときの利益にはつながらないかもしれないが、長い目で見たとときのまちの姿として、そういった若い人たちが健全に過ごしていけるまちをつくる、あるいはそういった人たちの居場所をつくる、というのは非常に重要なことである。

(事務局)

少し補足をすると、王子というのは本当に学校、学生が多いまちだということで、テレビでも放映されるほどに有名である。しかし事務局としては、教育都市というよりも、その学生がそこで集まって交流をして、さまざまな活動をする、といった方向性でまちの将来像を考えている。教育都市となると、文京区など他地区との競争においてなかなか難しいという思いがあるので、意見は参考とさせていただきたい。

(委員)

今の話に関連して言うと、例えば 13 ページの地域別特性の把握という資料についても、その中に既存の学校関連の施設など学生が集う場所をプロットし、行動形態が分かれば、別の見方もできるのではないか。

(会長)

そういった整理も、ぜひ事務局にお願いしたい。

(副会長)

資料の 11 ページの図について、交流という文字が王子だけにある。これは何を意味しているのかというと、19 ページのにぎわいと活力の創出の箇所にある、滞留・交流・情報発信ができる公共空間の整備が関係している。しかし現時点では、交流のキャッチフレーズ

で王子にアピールできるものがあるのかと考えると、それは何かわからない。区役所の移転に伴って、長岡市のアオーレのような、学生が自由に集うことができ、かつ交流・情報発信ができる公共空間を整備するするのか。もしくはまた別のことをいって交流と言っているのか、その辺りのイメージを少しご説明いただきたい。

(事務局)

14 ページの優位性・課題で掲げている交通機能が集積をしているということ、交流に関わる主な要素のひとつとして考えている。その状況の中で、何かにぎわいを創出するようなものの整備により、交流が生まれやすくなり、現在はその途上にあると認識している。そういった意味で、優位性をより活かすという中で、交流というようなフレーズが出てきたと考えている。

(副会長)

今おっしゃったことが交流ということであれば、都電も含めていろんな路線が集まっていることをさらに強調し、回遊空間も駅前整備等も含めてつなげて、何かイメージを打ち出したほうがいいのではないかと。そういった結節点としての特徴を活かすということであれば、それに見合うふさわしい空間づくりを訴えていくことが重要ではないかと。

(会長)

交流という言葉は便利でよく使われるが、もう少し因数分解し、どういう内容なのかということ、いま一度精査する必要があるというご指摘である。例えば交流空間というと、一般的にはイベントができるような空間や広場の整備が思い浮かぶ。先ほどの事務局の説明を受けると、地区内外からそこに人が集まってきて何かイベントなどを開催するのが交流のひとつの意味だとすると、施設と施設の間をきちんと行き来できるようにしていくことが重要ではないかと。特に王子の場合は、自然の地形や河川、明治通りのような幹線道路によってまちが分断されているので、その間に行き来できるようにしやすくするという意味でも、交流という言葉が使われているのかなという印象を持った。

(副会長)

11 ページの図の少し上に、埼玉県をイメージしていただきたい。さいたま市、川口市辺りだけで、200 万人近く人が住んでおり、王子で乗り換える人の中の埼玉県率は、結構高いと思っている。多くの埼玉県民が、東京に毎日到着しているわけだが、赤羽では大体 JR 同士の乗り換えになるので、まちの中に人はあまり出てこない。一方王子の場合は、別の電車に乗り換えるので 1 回まちに出る。このことを大きなチャンスと捉えるべきであるが、現状は乗り換える途中でどこかに寄ろうというような店が、ここに関係者がいらっしやったら申し訳ないが、極めて限られている。そういった視点で駅前を捉えることも意識いただきたい。

(会長)

資料の中でも、もう少し皆でイメージを共有できるように文言などを強調してもいいのではないかと。交通結節点であるので、その優位性をうまく利用し、複合的な機能も整備し

て強化していく必要性を共有していきたい。

(委員)

交流という言葉に関して、人がたくさん集まるという意味や都市機能の集積では恐らく池袋などには勝てない。しかし逆に、まちが分断されていることを活かすことはできないだろうか。というのも、同じ交流でも、移動が見える、あるいは自然が見通せる交通結節点というのは、赤羽や池袋と較べても王子の強みであると考えることができる。交流という言葉を手がかりに、それを空間に置き換えるなどしていくことで、次の整備計画などにおいて、何か出てくるような気がしている。

(委員)

交流という言葉が出たが、交流する人が誰なのか考える必要があると思う。歴史的に見ても、飛鳥山周辺において、老若男女、様々な世代、様々な人たちが集まり交流していた。現在でも、先程の話では学生が多いということだし、19ページには意欲のある起業家や観光客等と書かれており、若い女性や家族連れあるいは年配の方々なども含めて多種多様な方々が集まるエリアである。すなわち、この王子という町は、交流する対象を絞るのではなく、多様な方々が雑多に集うまちなのであって、対象ごとに求めるものも変わってくるので、そのあたりの整理が必要なのではないかと思う。

(委員)

にぎわい・活性化検討部会では、交流の対象というよりは、活性化にぎわいというのは、どういう人たちが対象で、どういう状態なのかということを少し議論してきている。大きく分けると、にぎわい活性化といったときに、ここに住んでいる人たちに加え、交通結節点ということ踏まえて日常的にこのまちを利用しているや通過する人たち、あとは飛鳥山の話も含めて、わざわざこの王子に来るといふ人と、その3つぐらいをイメージしないと、にぎわいと活性化といっても議論ができないという問題意識をもって、ここまで整理をしている。それが、どう交流するかとか、集まって何が起きるといふところまでは、まだ議論が踏み込めていないが、そこまでは整理をして話をしているという状況である。

(会長)

そちらのほうの部会でも、また今回のご指摘を受けて整理をしていただきたい。

(委員)

王子に住んでみて便利だと思ったのは、鉄道だけでなく、バスなども含めて非常に便利であり、いろんな交通の要になっているということ。しかし、駅前を移動する上では、幹線道路を横断する歩道橋が非常に重要であるにも関わらず、あまり使われていない。重要な幹線道路である国道122号線と都道307号線を横断する歩道は、停止時間が長く非常に不便で、老人や体の不自由な人に負担をかけている。また、東京メトロ南北線のおかげで、王子駅の周辺の地下のネットワークも非常に便利であるが、地上は非常に不便。そういった現状を踏まえて、駅周辺の活性化の観点からも、歩道橋レベルでのネットワークを強化いただくなどし、利便性が高まっていくことを期待している。

(会長)

続いて24ページ目以降、まちづくりのコンセプト、およびランドデザインとりまとめの方向性について、ご意見など伺いたい。とりまとめの方向性については、ランドデザインを最終的にとりまとめる際の目次構成、全体構成案が記載されている。

異論は特にないようなので、このコンセプトと目次構成で、とりまとめの作業を進めていただきたいと思う。また、事務局のほうで、今頂いた意見を基にして内容等の精査を進めつつ、各部会でもまたご検討いただければと思う。

(委員)

元の目次構成で示されていたアクションプランは、28ページの図で言うと、29年度以降の整備計画で検討していくと理解している。検討は、今年度のランドデザインだけで終わるわけではないということを示す意味でも、第5章の「実現に向けて」の記載内容が大事になってくる。ぜひ次年度以降につながるような表現や記載を検討していただきたい。

(事務局)

参考とさせていただきます。

(委員)

検討会での議論を踏まえて、まちの将来像を当初より広域的に描くようになり、それなりにいい成果としてまとまってきていると感じている。次年度以降の整備計画に関わる話かと思うが、ここで再度、駅周辺に視点を落とし、将来像の実現に向けた事業手法など、具体的な議論をする必要があるのではという気がしている。また、先ほど、多様な人たちをターゲットにしてというような話があったが、事務局としては多様と言わざるを得ないという気がしている。ターゲットを絞り込むのは、民間の事業者の方たちが、事業として成り立たせるための検討を行うタイミングで、自ずと作業として必要になってくる。そうすると結局、民間事業者が、収益をきちんと上げてなおかつ、区民や区役所が要望するようなものができるのかということを検討する場をどのように確保するかということが重要になってくる。その辺りの考えをお聞きしたい。

(事務局)

ランドデザインでは、広域的な視点でまちの将来像を描くことが成果となっていく流れであるが、今後、その将来像が一気に実現できるかということそうではない。まずは動き出そうとしている新庁舎の整備、それからその周辺、といったように段階的にそれぞれの事業を位置付けて整理していきたいというのが、事務局の考え方である。それは順次、波及効果も含めて今の考え方に基づいて広げていきたいと考えている。

(委員)

順序として、まず区役所が来るというのは我々も熱望しており、異論はないが、ただ全体の再開発事業として、どういう手法で整備していくかある程度検討した上で、その区役所の整備事業を位置づけないと、全体としては大きなビジョンを描いているのに、その場所が非常に小さなものになってしまうという懸念も感じている。



(会長)

グランドデザインなどの構想を作り上げると、今度は、それを実現させていく手法が重要となる。構想を構想で終わらせないためにも、整備計画の考え方が重要なのではといったご指摘をいただいた。今のご指摘を受けて、事務局には整備計画の考え方をいま一度整理いただきたい。重要なのは、今ある課題を解決するというと同時に、民間投資を呼び込みながら、地主や地元の企業など地権者が事業を展開していけるような素地を作ることである。事務局には、そういった整備計画に望む考え方やスタンスを示していただきたいと思う。

(委員)

再開発を中心とした都市計画は、長年にわたって様々な場所で行われてきており、参考にできる事例などの蓄積は多くある。王子においても、そういった蓄積から適切なものを選択していくような論理的なやり方で進めていただければと思う。

(会長)

実現に向けて一番適切な手法が選択できるような体制を取っていただきたいというご意見であるが、どこの役所も非常に難しい問題を抱えている。経済社会情勢が変化していく中、10~15年スパンで継続的にまちづくりを進めていく体制づくりが重要であり、北区でもぜひモデルとなるようなものをつくっていただきたい。アーバンデザインセンターのような、区がリーダーシップを取りながら、官と民、さらには地元の方々が互いにリスクも負いながらサポートし合い、連携して事業を推進していけるような体制や仕組みが必要かと考えている。それと同時に、東京都のサポートも不可欠であるので、ぜひ様々な都市計画の決定、あるいは補助や助成なども含めて、協力をお願いしたい。

(委員)

30ページの図にある先行検討区域については、21ページでグランドデザインとして示されているまちの将来像から、先行的に検討していく区域として示したものと理解している。この区域の範囲をどう設定するかという話と、その中において段階的に、かつどういった手法で事業を進めていくかという話について、可能な限り年度内の検討会の中で議論し、大体の共通認識を持てるといいと思う。その場合、先行検討区域の範囲については、駅前の青い楕円で囲まれているところが、駅前空間の再整備のエリアになっているため、その部分も区域に入れて検討をいただきたい。加えて、JR線路と王子神社に挟まれた部分も、駅西側の顔作りをする上で非常に重要であり、区域に入れていただきたい。さらに、東西方向のまちの分断をどう解消していくかということや、庁舎の跡地利用の検討なども考慮した上で、検討区域の設定をしていただきたいと思う。いずれにしても、事業の優先度や手法なども含めて、検討部会でもよく議論していただければと思う。

(委員)

前回のにぎわい・活性化検討部会では、グランドデザインを議論するに当たって、庁舎移転後の現庁舎敷地のあり方を議題に乗せるか、乗せないかというところで議論になった。

そういったこともあり、区域については事務局の考えを明確にしないと、次の検討部会でもそこが論点となってしまう。現庁舎敷地をどうするかという話と、新しく庁舎を建てる所にどういう機能を期待するかという議論を、どこまでしてよいのかということを含めて共有しておきたい。そうでないと、議論が空中戦になってしまう恐れがあるため、その整理はぜひお願いしたい。

(事務局)

現庁舎敷地については、恐らく10年後頃に、ここの利用が決まってくるようなスケジュール感かと思われる。従って、現段階においてなかなか具体的に書き込めない事情は、これまでも説明差し上げてきたが、次回改めて説明させていただきたいと思う。

(委員)

都市基盤・開発部会でも恐らく、この検討区域が議論になると予想される。まず先行検討区域とは何か。グランドデザイン策定後に、詳細検討する範囲を示すものなのか。その定義を次の検討部会までには、資料の中で明らかにしていただきたい。場合によっては、検討区域 A/B のように、開発の機運や整備の優先度などに応じて細分化するような区域取りのやり方もあるかもしれない。

(事務局)

次回の検討部会では、整理して考えをお示ししたい。

(会長)

先行検討区域といっても、その区域が広すぎると、議論が拡散してしまうこともあるので、できることを確実に見極めて検討対象に含めていくことが重要である。

(委員)

先行検討区域について、現在の検討の熟度から考えると、来年度以降の整備計画において、移転を想定する新庁舎建設の候補地の周辺から優先的に考えていこうとすることは、現実的であり理解できる。ただし、区役所が移転すると、人の流れが変わる。駅の西側に流れていたものが、東側に移る。そのことを考えると、駅周辺については、実現の時期は異なるかもしれないが、東西含めて一体的に考えておくことが重要ではないだろうか。

(事務局)

ご意見として受け止めさせていただく。

(委員)

今、地元住民のまちづくり協議会を立ち上げる準備をしており、今年度中には立ち上げ、地域の住民の要望や意見をとりまとめていきたいと思っている。その中で、コンセプトの、水と緑の豊かなまちというのを、私もとてもいいコンセプトと思っている。もともと王子は水の便で発展してきたまちでもあるので、何とかきれいな水の流れる石神井川にしたい。舟運なども積極的に活用していただければと思っている。

(会長)

19 ページ目の防災性の向上のところ舟運という言葉があり、これは恐らく何か災害が

あったときには舟を使って緊急物資を輸送するようなことを考えておくということかと思うが、観光面での舟運も、運営できる民間事業者いるかどうかなども見極めながら検討を進めていただきたい。

(事務局)

防災性の向上の箇所だけでなく、歴史や文化、自然等地域資源の活用のところにも、親水空間の整備や舟運の活用など水辺空間の利活用と挙げている。そういった視点での検討も進めていきたいと考えている。

(会長)

他に何かありますか。なければ、そろそろ時間もきていますので、まとめに入りたいと思う。本日、まず1点目としては、コンセプトについて。最後に若干のご指摘をいただいたが、水と緑豊かな王子を目指したいという地元からの意見もあり、概ねこのコンセプトで同意いただけたのかと思っている。事務局には、このコンセプト案に基づいて進めていただくようお願いしたい。

(副会長)

コンセプトに従って考えると、当面先行して検討する区域の中に、駅西側の音無親水公園も入れておいていただければと思う。

(事務局)

事務局では、人工の川である音無親水公園に対し、自然の川である駅の東側の検討区域に入っている部分を、より特徴的な箇所と捉えている。そういった点も含めて精査させていただきたい。

(会長)

先行検討区域の定義も含めて、議題としてご検討いただきたい。それでは、以降本日のまとめに入ることにする。

27ページ目にあるランドデザインの目次構成案については、方向性そのものについては特段ご意見がなかった。従って、事務局にはこの構成案を基にし、最後のとりまとめに向けた作業を進めていただければと思う。ただし、次年度以降の整備計画の考え方については、意見もいただいたので、説明できるようにしておいていただきたい。

ランドデザインの根幹となるまちづくり方向性、ゾーニング、検討イメージ等については、それぞれの検討部会において、引き続き議論をお願いしたい。

それから前半のところでもいろいろ議論があったが、連携や交流、あるいは多様性などの言葉の意味を再整理いただき、それがこの地区でこれから整備をしようとしている機能や空間、施設づくりなどに繋がっていくような、具体的なイメージが共有できるようにしていただきたい。それが恐らく委員の方々の意見かと思っているので、その点をよろしくお願いしたい。

それから、賛同いただいたコンセプトの下で、19ページ目に4つの基本方針が示されているが、一つ目の交通拠点機能の強化については、駅のキャパシティを上げていくこと

が重要な課題であり、そこが交流という言葉にも象徴されているのではないのかと  
思っている。交通拠点機能の強化は、大きくはキャパシティの向上と、結節点としての  
ネットワークと利便性の向上である。歩行者だけでなく、異なる複数の交通手段の  
結節機能の強化に結びついていくこと。場合によっては、交通拠点機能の強化と一  
言で書かれているが、2つに切り分けたほうがいいのかもわからない。

にぎわいと活力の創出に関しては、機能をいかにして複合化していくかというこ  
とが重要な観点である。生活者から来訪者、または交通結節点として利用する人、  
教育施設を利用する学生など若者からの視点でまちを俯瞰し、そういう人たちが、  
この地域でにぎわって楽しんでいくために、複合機能をどのように強化していくの  
かということが、課題になると思う。

また王子のまちは、自然地形や河川、それから幹線道路で分断されており、その  
分断された駅周辺の空間と、周辺の市街地をどうネットワーク化して、防災性の  
向上を進めていくのかという課題が、今日改めて確認された。基本方針について  
は、現在4本柱となっているが、もしかしたら5本か6本柱にした方が分かりやす  
いのかもしれない。そういった点も踏まえて、再整理いただきたい。そこに、前  
半の議論も集約されてくる。

来年度の整備計画では、19ページ目にあるまちづくりの方向性の各項目に基づ  
いて、工程表や事業手法などを整理していくことになるかと思うが、それらの優  
先順位などもイメージした上で、ランドデザインで記載すべき文言の整理等を行  
っていただければと思う。

#### 4. 閉会

- 事務局より、閉会の挨拶
- 傍聴希望者の退場
- 事務局より、次回の検討会は、第3回の都市基盤・開発検討部会、にぎわい・活性化検討部会を開催した後、来年の3月下旬頃開催したい旨連絡

以上